第3ブロック研修会　荻窪今昔話

「荻窪の歴史は語る――地域の連帯が、地域を活性化する」

講師／天沼熊野神社　渡辺寛

第3ブロックでは、昨年「荻窪四方山話」の講演で好評だった渡辺寛氏をお招きしました。昔、杉並区のなかにあったさまざまな地域。そこで、どのようなことが行われていたかを年代ごとにまとめた資料に沿って、講演が進められました。私たちの地域をどう発展させるか。荻窪の歴史が教えてくれることも多いようです。

社領は年貢が緩かった?!

最初に概略の領主についてお話しします。私は天沼に住んでいますが、天沼村は以前は日枝神社の社領、神社の領地でした。杉並区史には、天沼の人たちの大正時代の食事の様子が、非常に貧しい村だったというイメージで書いてあります。なぜ、貧しい村だったのか。「荻窪四方山話」でもお話ししましたが、この辺りは将軍様の鷹場だったため、鷹の餌を確保するために魚もタヌキも捕ってはいけないし、新しく田畑を開墾することも規制されていました。私は、この地域をそんなふうにとらえていましたが、最近、資料を見ていてわかったことがあ

荻窪法人会 会報 No.149

ります。上荻は天領で、下荻は日枝神社の社領でした。明治4年の廃藩置県ですべての藩が明治政府の一括管理となり、全国を検地しています。畑がどれだけ、田んぼがどれだけあるかを調べ直している。そのときの資料と江戸時代の資料を比較しますと、下荻窪村には隠し田畑が18・4町歩（5万5千200坪）あったんだそうです。これは全田畑の65%で、年貢を比較すると、上荻窪村よりも下荻窪村のほうが46%も安かった。下荻村は貧しかったといいますが、実は日枝神社の社領のところはだいぶ楽をしていたんじゃないかなと思います。日枝神社さんは江戸城に御神輿が入れたために、担ぎ手になりたい方が多く、商売がうまくいっている氏子さんたちがたくさん奉納を持ってきました。それで、日枝神社さんはお金には困っていなかったので、社領だった天沼村、下荻窪村、阿佐谷村、堀内村の検地は大変緩かったようですね。ですが、天領の上荻窪村は検地が厳しく、しぼり取られていたということだと思います。

高円寺の旧名は小沢村といいました。そこには、三代将軍の家光公がよく鷹狩りに来ていて、その休憩場所にしていたのが高円寺でした。「小沢」というのは湿地帯のことで、今の駅の南側は湿地帯だったので小沢と呼ばれていましたが、将軍様が休憩された「高円寺」が地名になっていったそうです。

参加した第3ブロックの皆さん。

どうして「杉並区」になったか

村の統合ということで、明治22年にそれぞれの小さな村が集まって杉並村、井荻村、高井戸村、和田堀内村ができました。役場があるところをその村の名前にするということで、最初は阿佐谷村にする予定でしたが、今ある役場のところが「阿佐谷字杉並」だったので杉並村になりました。ここから「杉並」という名が表舞台に出てきますが、もしかしたら「阿佐谷区」だったかもしれないですね。

次に甲武鉄道ですが、明治22年に新宿、中野、武蔵野、国分寺、立川まで通りました。その2年後、明治24年、甲武鉄道と青梅街道が交差する下荻窪に駅が作られました。当初は貨物の駅で、関町や高井戸などから荷物を東京方面に運ぶのが目的でした。当初の乗客は1日2～3人。汽車も9往復くらいでした。現在は1日約10万人の乗降客数だそうです。

中央線が電化されたのが大正8年です。そのころにやっと杉並、荻窪のあたりに電気が普及し、大正末から昭和の頭くらいにかけて、人々が下町から移り住んできています。それは、電化し水道が普及してきたからです。西武軌道が、淀橋から荻窪まで開通したのが大正10年ですが、実は淀橋から田無までという計画が明治30年にありました。経営がうまくいかなかったために頓挫したそうですが、もしできていたら、この地域はもう少し違っていたでしょうね。

中央線の高円寺、阿佐谷、西荻駅が大正11年にできました。中野と荻窪の間に1つ、荻窪と吉祥寺の間に1つ、駅を作る計画で、当初は馬橋に駅ができる予定でしたが、それを知った阿佐谷の人たちが陳情し、阿佐谷駅ができました。国鉄は、それでは中途半端であろうと高円寺にも駅を作り、中野と荻窪の間に2つの駅ができたわけです。

荻窪の歴史を見てくると、地域の連帯が地域を良くしている、地域で協力して頑張っているところが、うまくいっているんだという気がします。個人の能力には限界がありますが、地域で力を合わせた結果が現在の発展の姿になっているのだと思います。これから未来に向け、さらに荻窪の町も変わっていくと思いますが、みんなで力を合わせて、地域として変化に対応していかくてはならない――それが今回お話をするにあたって私が学んだことです。

資料を使い分かり易く説明する講師の渡辺氏。